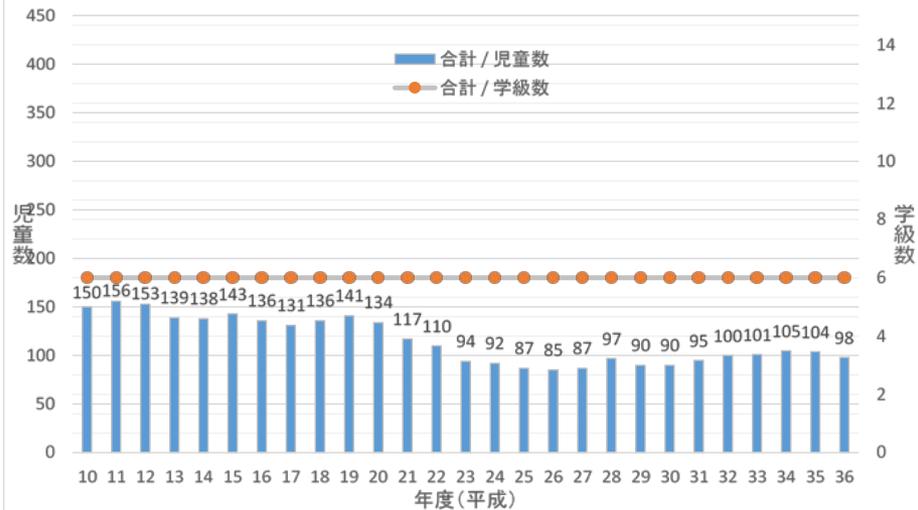


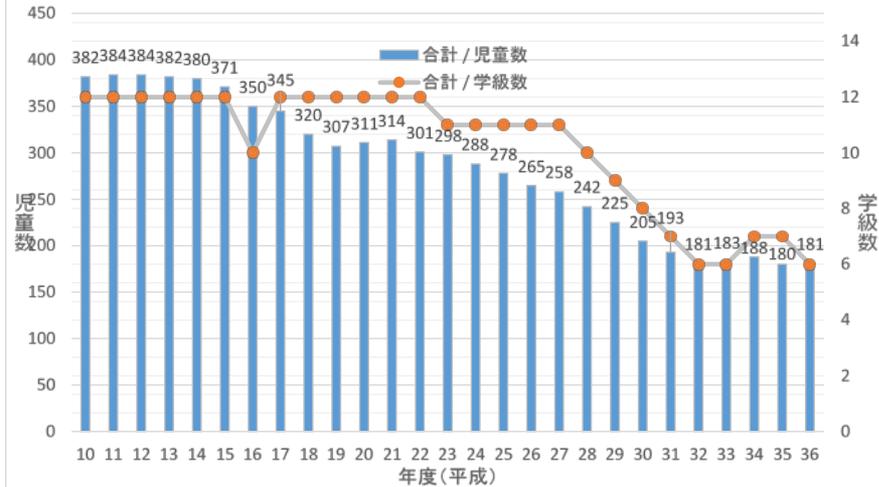
【事業の必要性】

生野中学校区の小学校の児童数・学級数推移

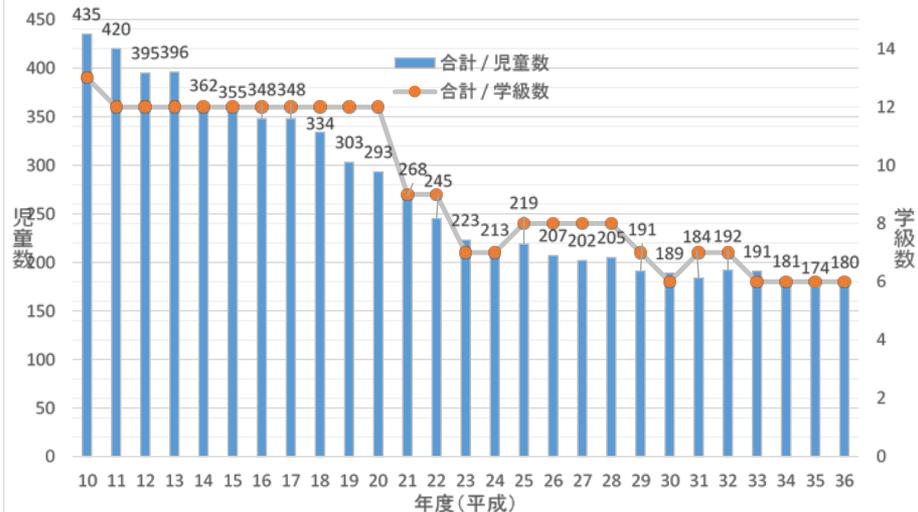
林寺小学校の児童数・学級数の推移



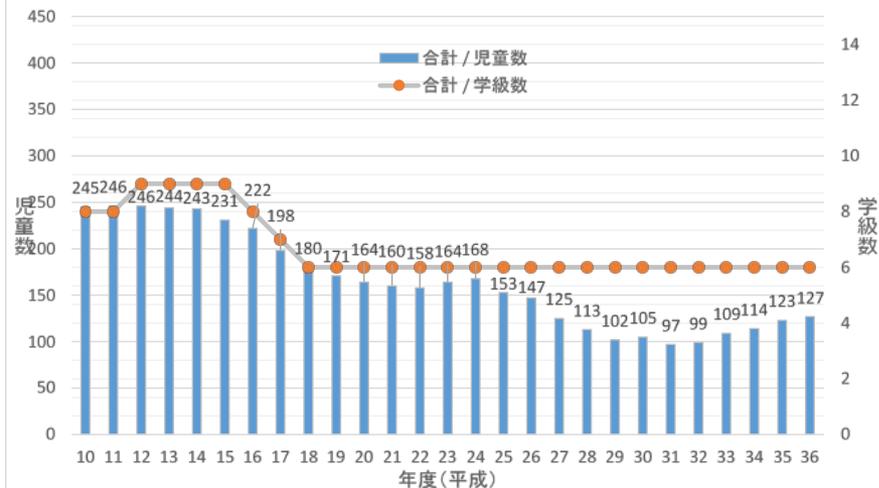
舎利寺小学校の児童数・学級数の推移



生野小学校の児童数・学級数の推移



西生野小学校の児童数・学級数の推移



※平成 30 年 5 月 1 日の児童・生徒数（速報値）を基に 31 年度以降の推計を算出しています。

※平成 30 年 5 月 1 日の児童・生徒数（速報値）を基に 31 年度以降の推計を算出しています。

【事業の必要性・事業効果の妥当性】

学校再編に関する行政の考え方

6年間クラス替え無し

同級生が10名程度の
学校も出現

クラス替えができる環境、
せめて高学年までに仲間が
増える環境を用意したい！

教員の若年化・多忙化

隣の担任に学べない

教員同士が学びあい、
助け合える環境を用意し、
教育の質を上げたい！！

P T A 参加者の減少

小規模校を避けた転出

まちの人口流出・高齢化を
止めるには、子育て世代に
選ばれる教育環境が必要

教育的・まちづくりの観点で再編は避けられない

【事業費等の妥当性】

《実施場所》

- ・義務教育学校として開校するため、生野中学校と隣接する西生野小学校敷地を有効活用することは、新規に土地を取得するものではなく、再編実施場所として妥当
- ・保有する普通教室数では他の小学校が多いが、生野中学校と隣接する西生野小学校を活用することにより、職員室の集約化や、特別教室の共有化などにより、増築規模を抑制することができ再編実施場所として妥当

	林寺小	生野小	舎利寺小	西生野小	(参考)生野中
校地面積	× 6,714㎡	△ 7,458㎡	○ 8,659㎡	○ 9,601㎡	19,535㎡
運動場面積	△ 2,800㎡	△ 2,800㎡	○ 3,920㎡	○ 2,840㎡	7,830㎡
普通教室保有数	× 6教室	○ 12教室	○ 12教室	○ 10教室	※余裕教室有
中学校との距離	△ 約700m	△ 約650m	× 約900m	◎ 約0m	-
通学距離	△ 最長約1.3km	○ 最長約0.9km	△ 最長約1.3km	△ 最長約1.3km	最長約1.3km

※距離はいずれも直線距離

【結論】 通学距離は最短ではないが、より良い教育環境の整備を行うことができる、生野中学校に隣接する西生野小の校地を活用し、義務教育学校を設置することを教育委員会として判断した。

《定量的評価及び定性的評価の検討②》

他の小学校で再編した場合

		他の小学校（西生野小学校以外）で再編した場合				今回の再編案		
定量的評価	建設費	小学校	生野小学校	 	767 百万円	1,068 百万円	義務教育学校	1,029 百万円
		中学校	生野中学校	 	301 百万円			
	修繕・改修費 ※長寿命化	小学校	生野小学校	 	609 百万円	609 百万円	義務教育学校	295 百万円
		中学校	生野中学校	 	0 百万円			
	維持管理費等	小学校	生野小学校	 	420 百万円	843 百万円	義務教育学校	843 百万円
	中学校	生野中学校	 	423 百万円				
	合計					2,520 百万円		2,167 百万円
定量的評価	建設費	小学校	林寺小学校	 	1,337 百万円	1,638 百万円	義務教育学校	1,029 百万円
		中学校	生野中学校	 	301 百万円			
	修繕・改修費 ※長寿命化	小学校	林寺小学校	 	177 百万円	177 百万円	義務教育学校	295 百万円
		中学校	生野中学校	 	0 百万円			
	維持管理費等	小学校	林寺小学校	 	420 百万円	843 百万円	義務教育学校	843 百万円
	中学校	生野中学校	 	423 百万円				
	合計					2,658 百万円		2,167 百万円
定量的評価	建設費	小学校	舎利寺小学校	 	913 百万円	1,214 百万円	義務教育学校	1,029 百万円
		中学校	生野中学校	 	301 百万円			
	修繕・改修費 ※長寿命化	小学校	舎利寺小学校	 	303 百万円	303 百万円	義務教育学校	295 百万円
		中学校	生野中学校	 	0 百万円			
	維持管理費等	小学校	舎利寺小学校	 	420 百万円	843 百万円	義務教育学校	843 百万円
	中学校	生野中学校	 	423 百万円				
	合計					2,360 百万円		2,167 百万円
定性的評価								<p>生野中学校区は、4つの小規模な小学校から1つの中学校に進学することもあり、学力向上・生活指導の両面から小中の連携や接続が課題となっており、生野中学校と西生野小学校を合わせた広大な校地と既存校舎を有効に活用し、一体的に施設運用することができる義務教育学校として、義務教育学校の長を活かした魅力ある学校づくりを進めていく。</p>

※定量的評価の試算にあたっては、生野区西部地域における老朽校舎及び屋内体育館の改築や長寿命化の計画されている期間で試算した。

【検討結果】

隣接する生野中学校と西生野小学校を活用することにより、職員室の集約化や、特別教室の共有化及び中学校校舎の余裕教室の活用などにより、増築規模を抑制することができるため、他の独立した小学校を活用するより事業費を抑制することができ、隣接する中学校と小学校を活用することは一体的に施設運用することができるため、定量的及び定性的にも今回の再編案は評価できると考える。